



題字：鳩山威一郎

平成十九年度特別企画第三弾

井上和子副理事長友愛を語る

ドイツ社団法人日本語普及センター 石登紀子理事長と対談
出会いを大切に、国際感覚・国際的視野でこれからの「友愛」を

八月二十一日(火)港区青山にある井上和子副理事長宅で、平成十九年度「友愛」特別企画第三弾の対談が行われた。今回は、井上和子副理事長の大学時代からのご友人で、現在はドイツ社団法人日本語普及センター理事長として精力的な活動を続けておられる石登紀子さんに「登壇いただき、国際的な視野からの「友愛」を語っていただきたい。」井上和子副理事長と石登紀子さんは、「大親友」と口を揃えておっしゃる仲。ドイツに居を移して活動を続ける石登紀子さんは、休暇の時のみ帰国できる。その帰国中には必ず会う旧交を温め合っているとのこと。話題の進捗も絶妙、「旧友同士」ならではの、まさに息の合った対談となった。

はじめに

国際的に活躍の、石登紀子さんを紹介します。井上和子副理事長の短く、この対談のために割っていただいたので、どうぞよろしくお願いします。私でお役に立てるのか、心配だわ。井上和子「友愛」については、由紀夫と邦夫が既に十分にお話しているし、私は「友愛について」と、堂々とお話できるようなことをしてないの、今日はお話ししたいと思っています。国際交流も大切な「友愛」の事業の一つだから、石登紀子のお話の中から「友愛」ならではの方向性が見つかるの

では、と思っている。石登紀子の活躍なんて、私は主人の仕事の関係でアメリカでの生活が長かったから、帰国した後、その経験を活かして、外国人に日本語を教える仕事をしてみよと、いわば専業主婦が四十歳にして脱皮したわけ。その延長線上に現在の活動があって、今はドイツに住む程、どっぷり浸かってしまっているけど。(笑)井上和子「ご主人は、その頃朝日新聞の記者をされていたのよね。でも今は石弘之教授といえ、環境問題で知らぬ人は無いほどの第一人者でいらして、邦夫もとても尊敬して、むしろ崇拜していると言えらるくらい。」

「公害」を問題提起

邦夫も、石教授のお話の重要性を力説しています。石登紀子「主人は子供の頃から植物が好きで、牧野富太郎博士の最後の弟子なんです。そういう目でみると、今の世の中、空も水も土も変だ」と疑問を感じていたらしく、記者時代に住んだ富士宮市でいわゆる「公害」を問題として取り上げ続けていました。井上和子「今では「公害」とい言葉も使われなくなっている環境問題」ですわ。邦夫も「環境問題」には早くから取り組んでいたのよね。私が聞いた石教授の勉強会に飛んできて、「今度国会議員が開く環境問題の勉強会

機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@qj8-so-net.ne.jp

http://www.yuaiyouth.or.jp

発行人：川手正一郎

編集人：中川 治男

隔月1回 10日発行

購読料

年額 3,000円

なりたい」って思ったそうだから、外国に出て日本を見るということ、大切なことなんですね。石登紀子「長い外国生活の経験から、外国で日本を紹介したいと思われたの？」井上和子「最初は外国暮らしの経験を活かして、日本語の教師になったのだけど、視線はアメリカに向いていて、まさかドイツに住むようになったとは思っていません。日本語教師をしているときの友人が「ドイツに日本語の学校を創りたい」というので、お手伝いできればと思って参加したのだけど、フランクフルトで教科書を作ったり、建物の手配をしたりしているうちに離れられなくなつて。井上和子「ドイツはそれ程魅力的だったということ？」石登紀子「もちろんだドイツの魅力もあつたのだけれど、私をここまで留めたのは、むしろドイツの人達の「親日観」だったと思う。日本人でも外国人のような感覚、国際的な方もいらつしやるのと同時に、ドイツの方の中には、まるで日本人のような心根の方もいらして、感動したり、感心したり。」

外国を体験すること

由紀夫はアメリカで政治家を目指す決心をしました。井上和子「本当に、その頃は邦夫も、そして由紀夫まで政治家になるなんて思ってもいなかっただけ。邦夫は早くから道へ進む決心をしたよ。ただ、由紀夫はアメリカ生活を経て、外国から日本を見たとき、「政治家に

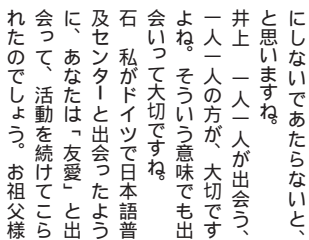
井上和子「私の主人もドイツも好きで、というかドイツがとて「ファウスト」を語っているほど精読して、「この本にも伏せ字はあるんだよ」なんて教えてくれたり(笑)自分の研究のヒントを「ファウスト」のなかに見つけたと言つて大喜びしたり。石登紀子「日本にもドイツ好きの方は多いけれど、ドイツでは、親日家が増えているの。訪れた若者たちは、全員が「日本大好き!」といつて帰ってくるの。嬉しいね。」

世界一の好感度

「日本人は親切」というのが、国際的評価です。井上和子「三月に発表されたBBCが行つた国際世論調査の結果では、日本の好感度はカナダと並んで一位なの。主要十二カ国とEUについて、二十七カ国、二万八千人を調査対象にして行われたなかで、日本が一位というのは、とても喜ばしいことですよ!」石登紀子「ドイツでも国内を訪れる外国人観光客で、どの国の人か好感度が高いかと調べると、日本人が断然一位



井上和子副理事長 (財)日本友愛青年協会



十一月のことを霜月(しもつき)と言つ、いろいろある気象現象のうちで、私は霜がもっとも好きだ。霜は「おきる」とか「結ぶ」といわれる通り、その現象には雨や風のような騒々しさが無い。静かに庭や松葉などに「うっすら」と白く降りてくる。陽があたると「ころころ」溶けて、湯気がうっすらとのぼる。すべて首もなく消えて行く。もっとも、この原稿を認めている今は十月で「神無月」(かみなづき・かんづき)である。すべての月が自然現象を基礎として別称をつくつていくのが、この月だけは、神様が関わっている。伝えられるところではこの月に「すべての神々」が出雲(いずも)にお帰りになさると、それ故、出雲地方では逆に「神在月」(かみあづき)と出雲以外にある神様は「お留守」であるから、お参りする人は建物に向かつてお参りしていることになり、散歩道の目印として神社や仏閣を見ながら歩いている。しかし、十月になつてからお参りしている人がいないとか、参拝者の数が減つているということもないよ。日本人の宗教様式はかなり形式化しているといつたことだろうか。仏教もまた同様で、例えば長野の「善光寺」には、どの宗派の人がお参りしても良いといつ。神宗や浄土宗など多くの宗派があつても、このことは認められているといふから、仏教も同じといつことか。(えい)

が始められたことだけでなく、それも一つの出会いですものね。これからも継承していくわけでしょうか？

自由と平等の間の友愛
祖父一郎とカレルギー伯の出会いが「友愛」

井上 祖父がカレルギー伯に出会って、「相互尊重 相互理解 相互扶助」の友愛精神を唱えたのも、出会いのなせる業といえるでしょうね。私は母が理事長を務めているときに、母を手伝うつもりで始めたので、「継承していく」なんておこなうことはいいないのだけど、カレルギー伯の言葉に「自由と平等の間に友愛がある」というのが好きで、自由だけでも、平等だけでも穏やかな暮らしにはならないと思うの。お互いを認め、尊重し助け合う「友愛精神」が、人間関係の接着剤となって、初めて豊かな暮らし、文化を伴った暮らしが生まれるのではないかと思っているの。

石 学生時代から、しっかりと精一杯、でも、何か目指す方向はあるんでしょうか。大物の和子さんのことだから、お手伝いだけでは終わらないと思うわ。



旧知の二人、笑顔も溢れて、時間を忘れて話が弾む。

井上和子(い)のかすこ(こ)
一九四三年東京生まれ、聖心女子大学英文学科学、鳩山誠一郎・安子夫妻の長女、鳩山由紀夫次女、鳩山由紀夫次女に育ち、現在、女性も社会に目を向ける、問題意識をもったの勉強会「タララ」の会、チャリティスクール「えん21」の代表を務める。
(財)日本友愛青年協会副理事長



井上 私もずっと専業主婦でいて、何か社会に目を向けた勉強がしたいと「タララの会」を始めたの。チャリティ映画会を開催したりもして、その後「友愛」に関わるようになって。今は、由紀夫も邦夫も随分「友愛」には思いをもっているようで、それなら私も出来ることをして、というのが精一杯

出会いを大切に
若者が「友愛」に「人」に出会って感動して欲しい

井上 そんな大上段に構えた構想なんてないけれど、「相互尊重 相互理解 相互扶助」の言葉を、今の

石 登紀子(いし)とき(き)
一九四四年東京生まれ、聖心女子大学英文学科学、六六年当時朝日新聞記者であった石弘之氏と結婚。三女の母。七九年、八三年、夫のアメリカ勤務により家族とニューヨーク・ジョージア州イングルウッド・クリブスに住む。帰国後日本語教師となる。九四年「ドイツ社団法日本語普及センター」の設立と共にフランクフルトに単身赴任。九四年七月から理事長。現在に至る。途中二〇〇二年より二年間夫がサンビア共和国大使を拝命。アフリカ生活も体験。夫の石弘之氏は、東京大学教授、国連環境計画上級顧問等歴任。環境問題の第一人者として活躍中。



若い人に素直に伝わる言葉にして、「友愛」の精神を知って欲しいとは思っています。言葉、思想との出会いも大きく人に作用する。「友愛」という言葉は、そういう意味でも大切な言葉だと思つて。加えて人と人の出会いの大切さを知る機会が作れば良いと思つて。

石 素晴らしい構想だわ。頑張ってください。



ドイツの「日本語普及センター」で活躍中の石登紀子さん(写真中央)

「友愛」外廻り

奥田 吉郎

新潟

国際学生スポーツ大会

一九五三年ドイツ(西)のドルトムントで、「国際学生スポーツ大会」が開催された。ここに出席した日独両国の役員の間で、戦争に破れて混乱の続いている両国青年の健全育成に資するため、青年の相互交流をはかる約束が成立した。

帰国した日本側は、参加した役員を中心に、「日独青少年交歓実行委員会」(以後「日独」と表記)を結成。初代会長に平沼亮三(横浜市長)、副会長に川崎秀二(衆議院議員)同大島鎌吉(体協役員)が就任し、事務所を横浜市(後全国市長会)においた。

翌年の一九五四年より、交流が始まり、派遣、受け入れを続け、十二年間に十六回の友好の機会を持ち、親善の成果をあげた。

川崎秀二先生は、青少年問題、スポーツ活動にも理解があり、鳩山一郎先生の信頼も厚く、「友愛」の副会長に就任された。

その関係で、私も「日独」の理事となった。先生は、その後「日独」の会長となり、飛躍的な発展をはかり、ついに「世界青少年交流協会」の結成をみるにいた

った。

日独交流の事業で、私が参加した一九六〇年と一九六五年について述べよう。ローマオリンピック電光掲示板

一九六〇年訪独 団員二十三名監督 訪独に先立って、ローマオリンピックユースキャンプのドイツ団に合流参加した。

ローマ七つの街道の一つアウレリアで、テント、マット、毛布に、警備隊の作る食事という状況で六百人のドイツ青年達と一緒に、二十日間過ごした。

オリンピックの開会式、閉会式、オリンピック見学、青年交歓、ローマ見学、イタリア視察(ナポリ)のプログラムを消化した。

最も劇的な場面は、閉会式の行われた十万人のスタジアムの、初めて採用された電光掲示板に、「一九六四年は、東京オリンピック」の文字が映し出されたときだ。

それを見た各国のキャンプの仲間達が、感激の余り集まってきて、「東京でもオリンピックユースキャンプを開いてほしい！」と叫び、互いに力強く抱き合っ

たり、固い握手を交わした。

こちらにも、感激にむせび、東京オリンピックをはるかに望みつつ、心に誓った。「オリンピックユースキャンプを開こう」と。

その思いが、後々苦労の連鎖を生むとはその時は、知る由もなかった。ドイツ人気質

ローマの後、本来の訪独に入り、ドイツ各地を視察したのは、主に重点を置いて、職業学校、スポーツシユレ(スポーツ研修施設)ユーゲントハイム(青年研修施設)であった。

また、特に希望して、東西に別れているベルリンに飛び、東ベルリンにも入った。ベルリンの壁が、くずれた時は、その当時を思い起こして、涙が止まらなかった。

当時の報告書の中で、ドイツ人の国民性について、私が記している部分があるので紹介しよう。

親切・正直・頑固・堅実が代名詞となっている。親切・正直は正義は普通のこと、金が無ければ、一方がピフテキを食い、片方ジャガイモを食っているという場面もある。家を借りる時その契約書はお互いにするさ

く、書物一冊分の厚さにもなり、そのお陰でトラブル無し。ドイツでの水害に遭遇

一九六五年訪独 百二十六名総監督 この訪独は、東京オリンピックのユースキャンプに、百八十四名の大部隊を送ってきたドイツ側の、返礼の招待であった。

最初の日に訪れたオーバベリアスのスポーツシユレで、いきなり洪水に突撃した。ライン河の支流リッペン河が、二、三日前の大雨で次第に水量を増し、キャンプ地に洪水が始まった。団員総出で、男子はテントと片付け、女子は地下の食料を階上上げるのを手伝った。日本方式パケツリレーが、効果をあげ、誉められた。

更に水量が増し、近くの農家に、私と五、六人の男子が救助に出かけた。しかし、洪水は、益々激しくなり、最後は避難命令が出て、ボートで救出された。

この救難活動と、団員の被災者へのカンパが新聞に大きくのり、後、ボンで家庭青少年大臣ヘツグ氏から表彰を受けた。

この度の訪独では、ポンのライン河沿いに立つ大統領官邸に招待され、長者の風格があり、首相の良き後立となつて、リユベケ大統領にお目にかかった。

こうした会には、めつたに出席されたいといわれている大統領夫人も参加され、一時余念に渡って、懇談、交流の楽しい時をもつ

た。大統領の挨拶の要旨を記してみよう

東京オリンピックユースキャンプには、多くのドイツ青年が、お世話になりました。

その出発に際しては、私も激励の挨拶をしました。が、今日、その返礼として招待した皆さんと、お目にかかるとは、大変嬉しい。

ドイツの青年も、各国の青少年と交流を広げているが、特に日本とは、最も多く交流しています。戦後の復興のめざましい日本、親独の日本との交流は、意義あると思います。

「日独青少年交歓実行委員会」の派遣、受け入れには、多くの友愛会員が参加し、協力して来たことを最後に記します。(つづく)

機関紙『友愛』原稿募集

20年度より、機関紙『友愛』に「会員からの便り」の欄を設けます。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節の『友愛』に奮ってご投稿ください。ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願い致します。要領：手書き原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。写真：紙焼き(カラー・白黒)・デジカメデータどちらでも。送り先：(財)日本友愛青年協会事務局宛

平成十九年度文部科学大臣奨励賞

第18回 友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール本選会出場者決まる!

「本年度より聴衆者賞」を新たに制定



(財)日本友愛青年協会が主催する「友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール」は、本年第十八回目の開催となる。回を重ねる毎に、その知名度を増し、また若き音楽家にとつての「登竜門」として注目を集めるようになってきている。

今年度は、そうした状況を反映して、全国各地から、六十名(内学生の部は七十名)という例年通り、多数の応募者を得た。

第一次予選は、十月二十四日(水)文京区にある、文京シビックホールにて行われた。午前十時半から午後八時までという長時間におよぶ長丁場を、七人の審査員の方々が熱心に審査を続けてくださった。結果、第一次予選通過者として二十八名が選ばれた。

第二次予選は、十月二十八日(金)第二次予選が、旧東京音楽学校楽室で開催された。歴史的建造物として特別に保存されている「旧奏楽堂」は、建物の佇まいはもとより、扉、窓ガラス、ドアノブに至るまで、歴史の醸し出す荘厳さに満ちている。

第二次予選に出場した二十八名は、旧奏楽堂の雰囲気にも應ずることなく、堂々とした歌声を披露、晴れ晴れとした表情で、審査員による審査の結果を待った。

午後八時、二次予選通過者十名が発表された。旧奏楽堂前では、喜びの電話をかける者、涙くむ者と、悲喜こももものドラマが繰り広げられた。

見事二次予選通過の十名は、十一月五日(水)同じく、「旧奏楽堂」で開催される本選会に出場する。

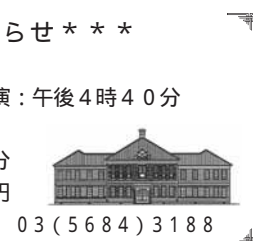
本選会出場者
学生部
・佐藤優子
東京音楽大学四年在学中
・山崎春奈
東京芸術大学四年在学中
一般部
・吉川かおり
国立音楽大学大学院修了
・布施奈緒子
東京芸術大学大学院在学中
・大野美沙

洗足学園音楽大学大学院修了
・岩田友里
東京芸術大学大学院修了
・老田裕子
大阪音楽大学大学院修了
・大道和世
国立音楽大学卒業
・石井 藍
ウィーン国立音楽大学修了
・清水俊徳
京都市立芸術大学卒業
審査員(順不同・敬称略)

朝倉蒼生・菅英三子・高橋啓三・原田茂生・ヨズア・バルチエ・本島阿佐子・島崎照代(本選会のみ)コントラト・リヒター
今回、第一回第一位文部大臣奨励賞受賞の本島阿佐子氏が、審査員として参加「本コンクールの歴史の証」と関係各位を喜ばせた。

あるオーストリア勤労青年連盟(OJAB)より、推薦をうけたガブリエラ・コヒアスさん(フルト)のミニコンサートが開催される。また、本年度から新たに、来場の方々の投票による「聴衆者賞」も制定された。多くの方のご来場を期待したい。

本選会のお知らせ
日時: 12月5日(水)
開場: 午後4時10分 開演: 午後4時40分
会場: 旧東京音楽学校奏楽堂
交通: JR上野駅公園口下車10分
入場料金: 学生千円 一般2千円
チケット等のお問合せ: 友愛事務局 03(5684)3188



中青連の国際事業は、このとき実質的に形作られたといつてよい。
昭和二十六年をGHQ(CIE)占領軍民間情報教育部)による中青連の発表期とすれば、この友愛が提唱した昭和三十三年の「国際ユースキャンプ」は、中青連興隆の契機を作った「第一の大きな波」とも言える。

特別寄稿

友愛精神で、さらなる国際平和交流事業を

本協会評議員/中央青少年団体連絡協議会理事 萩原直三



たことによる。と同時に一方では、真の友愛思想が理解されないまま入会するなどということ、そのブランドが許さないといつて、あえて入会を見送っていた経緯がある。

しかし、昭和三十三年の「国際ユースキャンプ」が友愛の提唱によって開催されたこと、またそれが「個の尊厳」に基づく「相互尊重・相互理解・相互扶助」という「友愛精神」の真髓に基づいて実践されたことなどによって、広く友愛が理解されるに至った。

因みに、この「国際キャンプ」の実施にあつては、「友愛」の奥田吉郎理事が中心となって活躍された。そして「国際キャンプ」は現在も引き継がれている。

中央青少年団体連絡協議会
去る六月二十二日、第四十回社団法人中央青少年団体連絡協議会(以下、中青連)総会及び第五十八回理事會において、「友愛」としては十一年ぶりに「理事」に就任することになった。

会長には、宇宙戦艦ヤマトでも知られる、(財)日本宇宙少年団の松本零士氏が引き続き就任された。

そのネットワークには、青少年育成国民会議、日米地域間交流推進協会、世界青年会議(WAY)、アジア地域青少年団体協議会(AYC)などがある。

「インドネシア・タイ・マレーシア」の「青少年自身体験交流事業(ミクロネシアへの派遣)」などに力を注いでいる。なお、「ブラジル派遣」や「ヨーロッパ平和の旅派遣」、「日独青少年指導者セミナー派遣」などもある。

詳細は省くが、中青連の「原型」は、戦後間もない昭和二十六年、またGHQの占領下にあつた時代に、「WAY」の第一回総会が「コネル大学で開催されたときに、日本から六名の(オブザーバー)参加があったことに始まる。

「中青連」の沿革と「友愛」の中心とする、例えば、「日韓・日中の青少年指導者派遣」や、「タイ・ベトナム交流事業」、「アジア地域派遣

「友愛」としてのこれから前後するが、昭和三十七年以後の「東南アジア使節団」の果たしてきた、いわばアジア平和と青年民間外交の実績。さらには、昭和五十三年の鳩山邦夫先生の訪中から始まる友愛(後の「中華全国青年連合会」と

「友愛」の奥田吉郎理事が中心となって活躍された。そして「国際キャンプ」は現在も引き継がれている。

「友愛」の奥田吉郎理事が中心となって活躍された。そして「国際キャンプ」は現在も引き継がれている。

「友愛」の奥田吉郎理事が中心となって活躍された。そして「国際キャンプ」は現在も引き継がれている。

「友愛」の奥田吉郎理事が中心となって活躍された。そして「国際キャンプ」は現在も引き継がれている。

「友愛」の奥田吉郎理事が中心となって活躍された。そして「国際キャンプ」は現在も引き継がれている。

「友愛」の奥田吉郎理事が中心となって活躍された。そして「国際キャンプ」は現在も引き継がれている。

「友愛」の奥田吉郎理事が中心となって活躍された。そして「国際キャンプ」は現在も引き継がれている。





友愛クラブ設立四〇周年記念会開催

「友愛」出身国会議員を迎え、賑やかに・和やかに

九月十二日(少)友愛クラブ設立四〇周年の記念会がパレスホテルダイヤモンドの間において開催された。友愛クラブメンバー多数集う中、「友愛」出身の国会議員も多数訪れ、盛会となった。

「友愛クラブ」は、鳩山一郎先生の薫陶を受けた「友愛青年同志会」の会員が、「三十五歳卒業」の後、有志が集い結成したもので、昭和四十二年に発足し

た。発足以来毎月一回(第二水曜日・正午から)例会を開き、様々な分野の専門家を招いて「卓話会」を開催している。

記念会開催のこの日は、折しも衆議院本会議の二日目にあたり、国会議員各位は、記念撮影に納まった後、国会へと向かった。その一時間後、「安倍総理辞任表明」のニュースが飛び込み、クラブメンバーも驚きを隠せなかったが、そ

の後森喜朗元総理からの祝電も披露され、何時も通り、友愛クラブならではの「旧知の仲間」の和やかさが漂い、話も尽きなかった。名残惜しさが残るなか、定刻を以て閉会となった。

出席の友愛出身国会議員(順不同)

海部俊樹元総理大臣・渡部恒三元衆議院副議長・鳩山邦夫法務大臣・鳩山由紀夫民主党政幹事長・吉川貴盛代議士・岩屋毅代議士・小川勝也参議院議員(代理)……

の後森喜朗元総理からの祝電も披露され、何時も通り、友愛クラブならではの「旧知の仲間」の和やかさが漂い、話も尽きなかった。名残惜しさが残るなか、定刻を以て閉会となった。

出席の友愛出身国会議員(順不同)



「友愛」出身の海部俊樹代議士・鳩山由紀夫代議士・鳩山邦夫法務大臣・吉川貴盛代議士を囲み記念撮影

人生十五年ごとの改進

中川治男 友愛クラブ四十年を迎えて思いました。

「友愛青年同志会」が三十五歳までが「青年」というのをひいて、青年活動を後進に託し、仲間精神と人生をもっと勉強しようとして「友愛クラブ」が発足されました。それから四十年思えばOBになってからの人生の方が長いことになりました。当時の同志会のメンバーは七十五歳以上になっています。

省みれば、青年活動を一生懸命やったと思っていましたが、それは十五・十六年の間で、青年活動はその時代によって異なるものですが、四十年前の青年活動を「動」とすれば、近年は「静」の時代と思えます。それだけ日本は平和な国と



海部俊樹元総理大臣(写真左)と渡部恒三元衆議院副議長(写真右)

思えますが、反面、危機感(ゼロ)に近いと思えます。

幼児時代の五・六年を除けば六歳・二十歳は社会へ出るための基礎準備。二十歳・三十五歳は夢多き青年で、社会人になり結婚してかわいいう子供ができて経済的に不安あれども楽しい良き時代であります。三十五歳・五十歳は子供の教育、住居の手配など、苦勞の壮年時代であり、五十歳・六十五歳は熟年期ながら第一次社会人を卒業する「定年」であり、いわゆる「老後」の心配をし、六十五歳・八十歳は初老期(?)の人生を迎えるのが、一般の人生と思えます。つまり十五年周期で改進しているものと思われま。

かと言つ私は、自分が今堅実にその周期をこなしているか、顧みの時期としておきましょう。

友愛婦人会だより

「論語」の会大盛況 音読・解説・元気な声溢れる教室



全員で声を揃えての音読。溝本先生のはっきりした声が、素晴らしい道しるべ

友愛婦人は、本年七月より「論語を学ぶ会」を開催、多くの受講者を集め、毎月一回の講義の日には、教室中に元気な音読の声が響いている。

この会は、湯島聖堂、傳通院など文京区内で開催されていた「文の京」でも論語塾の講師、溝本定子先生を招き、開催されている。「仮名論語」を教科書に、論語の音読、解説等充実した内容で論語に親しみ、論語の精神に迫っている。

講師の溝本先生は、「平成」の年号を提言した碩学安岡正篤氏を祖父にもち、「財」郷学研修所職員として活躍されている「論語」



大きな文字でふりがなを付し、だれでも論語に親しめるように編集された教科書



全員が真剣な眼差し。もちろん居眠りする人など一人もいない!

の申し子といつても良い方である。全国各地で、こどもにも解る論語の解説を実践、好評を博している。

その通る声、はっきりした口調で、「師曰わく」と音読を指導、応えて全員が元気な声で音読する。参加の婦人会員は、さながら学生時代に戻った如く、教科書を立て、前を向き、凛とした姿勢で音読を続ける。声も、表情も輝いている。「脳を鍛える」で有名な川島隆太教授は「音読」がもっとも手軽にできる脳活性化の有効な手段であると唱えている。

楽しみながら、脳の活性化にも有効で、「論語」という素晴らしい知識が身に付くこの会は、今後ますます充実した力を発揮することだろう。

現在、第一学期を十一月に終え、第二学期に向けて充電中である。

軽井沢友愛山荘 3月末まで冬季休業に入ります



「軽井沢友愛山荘」は、十二月一日より冬季休業に入ります。本年も大勢の皆様にご利用いただき、誠にありがとうございました。お借りして厚く御礼申し上げます。

また、ご利用の皆様から、「親切にしてください」「清潔な環境で良かった」など、沢山の好評をいただきました。こちらはまた御礼申し上げます。

来年度は、四月一日に開館致します。ご予約の受付は一ヶ月前から始めますので、是非、来年もご利用ください。お待ちしております。お問い合わせは、事務局まで。

十一月末までは、営業致しておりますので、行く秋を楽しみ、一日を、どうぞ「軽井沢友愛山荘」でお過ごしください。ご予約、お問い合わせは、事務局まで。

「友愛」の予選会も開催されました。音楽の殿堂「旧奏楽堂」で、来年の予選会、本選会も開催したいと、一年先の予約抽選会に臨みましたが、結果は、難関突破で確保! 思わずヤッターです。今年は、十一月五日開催の本選会、皆様のご来場をお待ちしております。

六十二年前敗戦国日本は、焼け野原、食料も物資も住む家さえ無かった。しかし日本復興のため、思想は異なれど全国各地で青年が集い、青年会(団)が生まれ、活躍してきた。

経済は飛躍的な復興をとげ、海外の青年と交流をもち、世界平和のための活動を始める時代がきた。しかし、現在の日本は、平和ではあるが危機感が薄い。現代の若人から、「友愛」としてこのような活動をして欲しい、あるいは実行したいと活動の提案がされることを望んでいる。何時でも事務局まで「ご連絡ください」(事務局長 中川)

「あ」と言う間もあればこそ、気がつけば十月、年賀状のCMが流れ、いやが上にも急ぎ立てられまく、木々の色づきは見られませんが、人間界も、自然界に倣って「ゆっくりズム」で「イヤ、この自然現象は人間が起した悪さの故、基本的な自然との共生を考えなくては、ですね。(モ)」

「芸術の秋」たけなわ。各地の美術展も盛況です。「友愛ドイツ歌曲コンクール」の予選会も開催されました。音楽の殿堂「旧奏楽堂」で、来年の予選会、本選会も開催したいと、一年先の予約抽選会に臨みましたが、結果は、難関突破で確保! 思わずヤッターです。今年は、十一月五日開催の本選会、皆様のご来場をお待ちしております。

